潮騒

第45号
平成30年
１月１日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四-五
海事センタービル
電　話　〇三-三二三四-〇六六二
ＦＡＸ　〇三-三二三四-〇六八二

新年あけましておめでとうございます

公益財団法人　日本殉職船員顕彰会

会長
朝倉　次郎

皆さまにおかれましては、おすこやかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、賛助会員、協賛会員ならびに関係者の皆さまには、当会の事業運営に多大なご支援ご協力を賜り、おかげさまをもちまして事業も滞りなく実施できましたことを、あらためて厚く御礼申し上げます。

昨年8月、独立行政法人海技教育機構のご協力により、練習船銀河丸で「戦没船員船上慰霊式」を、先の大戦の激戦海域であった南シナ海において執り行っていただきました。この慰霊式には、ご遺族、船員ＯＢから戦没した夫、祖父、父、兄、弟、おじ、船友へと51通の手紙が託され、その思いを洋上に手向けていただきました。

10月には天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、皇居・東御苑「桃華楽堂」において能楽「海霊」を奏上し、天皇皇后両陛下ならびに秋篠宮ご夫妻、高円宮妃久子様がご鑑賞されました。

さて、戦没船員6万余人もの尊い犠牲を払った先の大戦が終わってから73年の年月が過ぎました。年月の経過や戦争を体験しない世代の増加などにより、戦争への風化が進みつつあるなかで、ややもすればあの悲惨な戦争で祖国のために犠牲となられた戦没船員への思いも薄れようとしています。

しかし、かけがえのない肉親を亡くされたご遺族の御霊への心情は、年月の経過とともに薄れるものではありません。私たちは、二度とあの悲惨な戦争を繰り返さないためにも、戦没船員への慰霊、顕彰事業の重要さを広く国民に伝えなければならないと痛感する次第であります。

また、戦後、荒廃のなかで復興に向けたわが国にあって、それを支える重要な海運・水産業に従事し、数多くの船員が不幸にしてその職に殉じられております。

今日の我が国が海洋立国日本として、平和と繁栄を享受できているのは、戦没・殉職された方々の尊い犠牲とご功績のうえにあることを決して忘れてはなりません。

申し上げるまでもなく、当会は、志半ばで先の大戦で犠牲となられた戦没船員と、海難等で殉職された船員の慰霊、顕彰と遺族援護ならびに、海洋立国の精神を高揚し、海事思想の普及と海洋における永遠の平和を希求することであります。

当会の事業運営は厳しさを増しておりますが、関係団体や皆さまのご理解とご協力を賜りながら、戦没・殉職船員への思いを絶やすことなく、事業を続ける所存でございます。

本年も旧年に変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

お知らせ

第48回戦没・殉職船員追悼式

日時　平成30年5月15日（火）
午前11時開式（予定）

式場　横須賀市観音崎公園
「戦没船員の碑」にて

天皇皇后両陛下
能楽「海霊」ご鑑賞

平成29年10月11日、日本殉職船員顕彰会は皇居・東御苑「桃華楽堂」において、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、戦没・殉職船員追悼式で奉納している能楽「海霊」を奏上した。

天皇皇后両陛下は、能楽「海霊」を秋篠宮ご夫妻、高円宮妃久子さまとともにご鑑賞された。

天皇皇后両陛下の能楽「海霊」ご鑑賞は、平成12年5月、第30回戦没・殉職船員追悼式以来17年ぶり3回目となる。

この日、日本殉職船員顕彰会からは朝倉次郎会長、前川弘幸元会長、森田保己副会長、役員、評議員ならびに能楽「海霊」を作詞された故宮越賢治船長のご家族が陪席された。

能楽「海霊」は、戦没船員6万余人の霊を慰め、その徳をあきらかにし、あわせて平和を祈るために、船友と生死を共にされた故宮越賢治船長が作詞、25世観世左近元正師作曲によるもので、戦没・殉職船員追悼式で故宮越賢治船長をシテとして観世一門によって奉納されていたが、宮越船長亡きあとは観世一門によって絶えることなく奉納されている。

独立行政法人　海技教育機構（ＪＭＥＴＳ）
練習船・銀河丸「戦没船員船上慰霊式」

独立行政法人海技教育機構（ＪＭＥＴＳ）の多大なご協力により、当会と共同で練習船・銀河丸（６１８５総トン）で、「戦没船員船上慰霊式」を南シナ海で執り行った。式典では、ご遺族から託された51通の手紙を海に手向け、登げん礼（敬礼）、黙とう（汽笛吹鳴）を捧げ、式典終了後、周辺海域を汽笛を鳴らしながら一周し、御霊の鎮魂と永遠の海の平和を祈った。

また、日本に向けての復航で鹿児島県トカラ列島悪石島付近において、多くの学童と船員が犠牲になった「対馬丸犠牲者特別慰霊式」を執り行った。

練習船「銀河丸」は昨年8月5日、実習生164名を乗せて横浜からシンガポールに向けて出航した。この遠洋実習航海の途中、先の大戦の激戦海域を航行することから、犠牲となった戦没船員への哀悼の意を表するとともに不戦の誓いをあらたにするため「戦没船員船上慰霊式」を、南シナ海の3海域で執り行った。

独立行政法人　海技教育機構　練習船・銀河丸

8月11日、第1回目の式典は晴天に恵まれ、熊田公信銀河丸船長の追悼の辞、実習生代表による追悼のことばの後、供物ならびにご遺族・船員ＯＢからお預かりした、夫、祖父、父、兄、弟、おじ、船友への手紙を穏やかな海面に手向けた。引き続き実習生、乗組員による登げん礼、黙とう（汽笛長々音吹鳴）を捧げ、周辺海域を汽笛（長音3声）を鳴らしながら一周し、戦没船員の御霊の鎮魂と永遠の海の平和を祈った。

熊田船長は「横浜出港後、台風余波、バシー海峡手前での向い波で最初は難儀しましたが、本日（11日）は南シナ海の晴天の下、凪もなくとても穏やかな海面で慰霊式を実施出来、お預かりした手紙も無事、海に手向けることが出来ました。当初予定していた海域よりやや南になりましたが、マニラ湾の西方海上、ミンドロ海峡の入口に近い海域でしたのでお届けした手紙もレイテや東側の海域で命を落とされた船員のご家族からお預かりしたお手紙もきっと潮が運んでくれるものと信じています。」とメッセージを寄せた。

第2回目は8月13日、ベトナム東方、南方海域。第3回目は8月14日マレーシア南東方、シンガポール海域でそれぞれ厳粛に執り行った。

また、8月31日、シンガポールから大阪に向けての復航で、当初の計画にはなかったが、トカラ列島悪石島付近の海域で、「対馬丸犠牲者特別慰霊式」を執り行った。

昭和19年8月22日深夜、陸軍徴用船「対馬丸」は台風接近のシケ模様のこの海域を、疎開学童等1661人を乗せ那覇から長崎に向け航行中、米潜水艦の魚雷攻撃を受け船首を天空に向けて沈没した。式典では犠牲となった多くのいたいけな学童と救助に当たっていた教師、船員等、約1500人の御霊の鎮魂を祈った。

この式典終了後、「銀河丸」の周りをイルカの群れが泳ぎ回り、参列者からは「海に眠る子供たちがイルカになって喜んでいるようだ」との声が上がった。

黙とうを捧げる銀河丸実習生と乗組員

実習生、乗組員による登げん礼。大海原に向かって敬礼

船長による追悼の辞

独立行政法人　海技教育機構
練習船　銀河丸
船長　熊田　公信

あれから70年余の歳月が流れました。

本日、ここに謹んで、6万余の海霊に捧げます。

ここに眠る先輩方は先の大戦において戦時徴用船に乗り組み、寒風肌を突き通す北海から炎熱　鉄をも溶かす赤道直下の南洋までの広大な海を舞台として軍需・民需物資の輸送に決死となり、粉骨砕身、その身を挺して活躍されました。

しかし、苛烈な戦下において、その尊い生命を蒼海深く沈め、ふたたび還ることはありませんでした。

そこには何の栄誉も与えられることなく、墓標なき海に眠られました。

自由に大海を駆け巡る夢と志を持って船員となりながら、夢を果たせず志半ばで故郷から遠く遠く離れたこの海域で命を落とすことは、寂しさとともにさぞかし無念であったろうと思います。

しかし、あなた方、先輩船員の勲し（いさおし）は、今の海の平和を守る礎として、凛として万世に光り輝くことでしょう。

本日は70余年を経ても変わらぬお気持ちを託されたご家族からのお手紙、そしてお気持ちをお預かりし、ここにお届けに上がりました。どうぞ、ゆっくりとお読みになられ、ご休心下さい。

墓標なき海深く眠る御霊に捧ぐ。

私たちは本日ここに、あなた方の魂魄を鎮め、生命をかけて守ろうとした船と海の墓標の前に、再び海を戦場にしてはならないと決意する次第です。

そしてここに集える若き実習生達が、あなた方の為し得なかった志を継いで、これからの日本の海運のみならず、日本国を支える大きな力となることをここに誓います。

安らかに眠り給え、わが先輩船員の御霊に捧ぐ、波　静かなれ、永遠に。

実習生代表による追悼のことば

銀河丸実習生代表　佐々木　涼平

本日、銀河丸の船上慰霊式にあたり、実習生代表として謹んで哀悼の言葉を申し上げます。未曾有の海洋戦争となった先の大戦において、日本商船隊は輸送の主力として多大な負担と危険な航海を強いられ、6万人を超える船員が命を落とされました。そして6万人の戦没船員のうちの実に3割までもが、20歳にも満たない年少船員でした。また、実習の最中に亡くなった実習生も少なくありません。私たちとそう変わらぬ年齢で、同じように海に憧れ、海を志しながら、敵弾に怯えながらでしか海に出ることができず、ついには志半ばで命を散らされた先輩方のご無念は、はかり知れないものがあります。また、帰らぬ先輩方を待ち続けたご遺族の悲しみを思うと、胸がふさがる思いを禁じえません。

戦後72年、壊滅した日本商船隊は生き残られた先輩方のご同輩や、続く諸先輩方のご尽力により再び世界へ航路を広げ、日本を世界有数の海運国家へと押し上げました。この平和と繁栄の72年間を隔てた我々の世代にとって、戦没された先輩方はあまりに遠く、ともすれば歴史の本の一節に埋もれてしまいかねません。しかし、今日我々が享受する平和と繁栄は、幾多の努力を経て先輩方の犠牲へと繋がる歴史の、直接の延長上にあることを決して忘れてはなりません。

本日、我々はこの海域まで台風以外にさしたる心配もなく航海をしてまいりました。この平和な航海は、ともすればごく当たり前のように感じてしまいますが、先輩方が切望しながら、ついに叶わなかったかけがえのないものです。この海でのびのびと実習ができる平和の尊さ、有難さを改めてかみしめつつ、先輩方を襲った悲劇の歴史の上に立ち、先輩方に続く直接の後輩として、日本の海事産業の次代を担う世代として、それに恥じぬ人物たるを目指すことが、先輩方の犠牲に報いる道であると信じます。

結びに、先輩方のご冥福と、皆様の眠るこの海の平安を祈り、追悼のことばとさせていただきます。

実習生代表による追悼のことば

銀河丸実習生代表　後藤　祐希

平成29年船上慰霊式にあたり、太平洋戦争において戦没された多くの先輩船員の御霊に対し、銀河丸実習生を代表して、謹んで追悼の言葉を申し述べます。

先の大戦においては実に6万余の先輩船員が尊い命を落とされました。私たちのこれまでの汐路においても、また日本から遠く離れたここ南シナ海においても、多くの先輩船員が今なお海底深くに眠っておられます。日本から遠く離れた海上に、自分たちを守ってくれる護衛もなく、敵機や潜水艦の恐怖に苛まれながら、祖国のため、国民のために危険な海上輸送に従事し、愛する家族を日本に残し、志半ばにしてその身を散海された先輩方の悔しさ、無念は計り知れないものがございます。

私は3年に渡り、観音崎で行われる戦没・殉職船員追悼式のお手伝いをさせて頂きました。ご主人を亡くされた方、幼いころにお父様を亡くされた方、多くのご遺族の方とお話しする機会を頂きました。また同期を喪った方のお話を伺いました。その方はモノクロの船の写真を強く握り締めながら、この船で同期を3人喪ったこと、毎年の追悼式で白菊を3本貰い、遺骨なき同期の墓前にお供えされていることを涙ながらお話しなされました。最愛の家族を喪ったご遺族の皆様、共に船に学び、共に夢を語り合ったであろう仲間を一度に亡くされた先輩方、残された方々の深い悲しみと苦しみに思いを致すとき、改めて戦争の残酷さに胸をつぶされる思いであります。

私たちはこれから、就職や進学などそれぞれの道を歩んでゆきます。海上で働く者、陸上で働く者、更なる勉学に励む者、様々な進路に進むと思いますが、現在の豊かな暮らしや経済が、そして私たちが進む力強い海事社会が、ここで眠る先輩船員の尊い犠牲の上に築かれてきたという歴史を、私たちは決して忘れてはなりません。この歴史を深く顧み、ここに眠る先輩方の果たし得なかった意思を継ぐことこそが、商船学生として船で学んだ私たちに課せられた重要な使命であります。

結びに戦没者の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、ここに眠る先輩船員のご意思を継いで、海洋国家日本を支える力となれるよう、益々の研鑽を積んでいくことをお誓い申し上げまして追悼の言葉とさせて頂きます。

ご遺族からのお礼の手紙

▼この度は現地での船上慰霊式を行っていただき、誠に有難うございました。

慰霊行事が滞りなく終わり、皆さまがご無事でご帰着、安堵いたしました。

ご報告書と船上慰霊式のDVDで慰霊式の様子を拝見させていただきました。あの広いきれいな海で戦争があったのが嘘のように思われました。戦後72年、いろんな思いがありましたが慰霊式をしていただいたことで父も報われたような気がいたします。

最後になりましたが日本殉職船員顕彰会様、銀河丸船長様始め、乗組員他関係者の皆様に心よりお礼と感謝申し上げます。

▼本日思いがけずご丁重なるお手紙と録画お送り下さいまして、誠に有難うございました。

全く予想もせずに居りましたので、本当に吃驚と同時にとても嬉しく感激致しました。

私の父への手紙は、8月11日13時過ぎに投函と伺っておりましたので、当日は遺影を机の上におき『私の手紙を必ず受け取って読んで下さいね』とお願いしていました。当日の録画を拝見しますと海も空も青々と晴れ上がり本当に素晴らしい光景でございました。

多くの方に追悼文を捧げて頂けました。お花もお酒もそして家族からの手紙も、多くの方々の御霊が深く深く癒されたであろうと信じたいと思っております。

父への手紙から始まったここ3カ月程、74年振りに父と触れ合い懐かしい思い出に浸ることが出来た事、御会の企画に心から感謝申し上げ、御礼申し上げます。

穏やかな洋上に献花する熊田船長

▼日本殉職船員顕彰会におかれましては、平素から何かとお世話くださりありがとうございます。

さて今度、お盆の最中に南シナ海航海中の「銀河丸」船上において慰霊式を挙行して頂きあわせて戦没者あての手紙を手向けて頂きました事、大変感謝しております。

特に私は叔父の身内が少なくなる中で、生前の叔父の姿を知る唯一人の者でして、かねがねから何らかの方法で、遠い南の海に眠る叔父の霊を慰めたいと思っておりました矢先、今回の「手紙手向け」のお話しがあり、さっそくご指定の水溶性用紙を手配しました。

そして、文中には、先の大戦で叔父さんたち多くの方々の犠牲により現在の日本は平和な国家となり経済大国となった事や、叔父さんの愛妻が若くして未亡人となりましたが再婚することなく唯々叔父さんの霊を守り続け平成17年94歳で他界されたこと等、記しました。

一方、我が家では8月13日当日、南側の部屋に小さな祭壇を設け叔父さんの写真を飾り、京都の水と、京都のお酒を供え午後1時45分家内と二人で南方に向かって追悼いたしました。

今回74年ぶりに叔父あてに手紙が出せました事で、何か肩の荷が下りたような気がいたしました。

本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

▼前記の方からの2通目の手紙

本日は、過日行われました銀河丸船上における慰霊式の模様を撮影したDVDをご恵贈くださりありがとうございました。早速我が家のテレビで拝見しましたが式典の状況がよくわかりました。

船長の追悼の辞に始まり献花、献酒、そして私たちが託しました手紙を大海原に手向けて頂き、やっと南海の深い深いところで永遠に眠る叔父に手紙が出せました事、心から嬉しく思いますとともに叔父慰霊の懸案が一つ解決いたしました。

本当に有難うございました。そして最後銀河丸が追悼式海域を1本の航跡を引きながら1周・汽笛長3声のシーンでは、思わず涙が流れました。もし叔母が生きておればどんなに感動したことであったろうと思います。

先の戦争や海難事故で多くの人が亡くなった事を覚えている人が、だんだん少なくなって来ました事は大変寂しいことです。それだけに今回の船上慰霊式典開催は大変有意義な行事であり、貴顕彰会のご好意に心から感謝とお礼を申し上げます。

有難うございました。

▼慰霊行事について、その行事内容、式次第、追悼の辞（船長、お二人の実習生代表）、写真およびDVDと詳細な内容をお届け頂き、真に有難うございました。

戦死した兄は、タイランド沖にて昭和20年4月6日に両舷に魚雷を受け、沈没、戦死しました。享年21歳です。戦後72年が経ちますがいまだ一度もその死地を訪ねることなく、一人寂しく南海の海の底に眠ったままでした。

この度多くの関係者のご尽力で現場での慰霊の式を挙げて頂きました事は、今は亡き父母、姉、及び生きている兄妹5人にとりまして望外の喜びで感謝の一言です。これで兄も報われ安らかに眠れる事と思います。

今回の行事に多くの方に煩わせました事に厚く御礼申し上げます。関係頂いた全ての方々にお礼を言って頂き、日本の海運界の今後の益々の発展とお元気に活躍されます事を心からお祈り致します。

▼この度は、銀河丸船上慰霊式のご報告をお送り下さいまして有難うございました。

荘厳に執り行って頂いた様子がよくわかり、若い実習生の皆様の追悼の言葉に心打たれました。

ビデオに写し出された見渡す限りの大海原に、改めて遥かなこの海で国家のために家族を思い働いていた父の姿を偲び涙しました。手紙はきっと届いたことと思いました。誠に有難く厚く御礼申し上げます。

私事でございますが、私の主人も商船大学出でございました。

銀河丸実習生の皆様のご活躍と海の平和、海運の益々のご発展を心よりお祈りして御礼のご挨拶とさせて頂きます。有難うございました。

ご遺族からの手紙を洋上に手向ける熊田船長

対馬丸犠牲者特別慰霊式で犠牲者へ黙とうを捧げる（島はトカラ列島の悪石島）

▼10月に入って空が青く澄み、秋本番を迎えているような気が致します。

お礼が遅くなってしまいましたが、先日は「銀河丸」で行われた船上慰霊式のご報告とDVDを送って下さってありがとうございました。母の方に送っていただきましたが、離れて暮らす私の方に郵送してもらい、こちらでも帰省中の次男や夫と見せていただきました。

次男は今年、東京海洋大学を卒業し、4月からN社で航海士として勤務し始めました。ちょうど海外での社船実習から帰国した所でしたが、多くの同級生は「銀河丸」で実習しており、今回、追悼のことばを述べてくださった佐々木君、後藤君は大学の同期で、不思議なご縁を感じます。若々しく誠意のこもった言葉で戦没者への思いや、これからの決意を話され大変感動致しました。

また、熊田船長はじめ皆様が行って下さった立派な慰霊式の様子に胸がいっぱいになり、その様子をこうして一人一人にご報告していただけることは、本当に有難いことと心から感謝申し上げます。

観音崎での追悼式に、母はずっと参加させていただいておりましたが、私は今年初めて参加させていただきました。その時も海洋大の海事普及会の学生さんが一生懸命お世話して下さっており、次男は一昨年、ちょうど70年の節目の年にお手伝いさせていただく機会がありました。

母の父は昭和20年2月25日、海防艦「昭南」の艦長として海南島沖で戦死しました。

まだ母が6歳でしたので、私は写真でしか祖父を知りませんが、船員姿の優しい眼差しでした。東京商船大学を卒業後、日本郵船で船長として働いていましたが召集されました。

偶然にも次男が同じコースを通って今年から社会に出ました。祖父のように志半ばで散った多くの方を思うと、元気に務めを果たしてほしいと願うばかりです。

今回託した手紙は海に眠る祖父にきっと届いたと信じています。

本当にお世話になりました。母と共にお礼申し上げます。

銀河丸の周りを戯れるイルカ。海に眠る子どもたちが喜んでいるようだ

銀河丸戦没船員船上慰霊式に託す手紙とともに、多くのメッセージが添えられていました。

▼ご遺族から電話で

この度はお世話になります。船長さんに伝えてほしいことがあります。

「私は98歳になりましたが、主人が戦死してからのこの70年余りの間、ずっと南方の海に手紙を送りたいと思っていました。今回、その思いがかない大変うれしく思います。よろしくお願いいたします。」

手紙には、「あなたに大変お世話になった感謝しています。あなたが一度目の遭難で無事に帰ってきて、再びに海に出るときは、大変心配でした。それは、一度目の時に、たくさんの方が亡くなったのを知っていましたから。私はいま丈夫に暮らしています。いずれ、そちらでお会いできる日を楽しみにしています。」と書いてありますと、話していた。

マスメディアの報道

銀河丸戦没船員船上慰霊式は、テレビ、新聞、海事関係新聞、個人のブログ等で大きく取り上げられた。

神奈川新聞は、銀河丸が横浜出港から大阪帰港までの記事を連載するとともに、論説・特報欄で「銀河丸戦没船員慰霊の旅へ」と題して、戦没船員遺族の思いや戦没船員について、2回に分けて「託された51通の手紙」「二度と戦火の海へは」を詳報した。

また、沖縄タイムス「若き船員対馬丸を追悼」、琉球新報が「実習生平和構築を誓う」として対馬丸犠牲者特別慰霊式を報道。

この新聞記事を読んだ、対馬丸記念会と対馬丸記念館から、「大変驚き感動しました。未来を担う20代の若き実習生らが、対馬丸を含む戦時犠牲者の御霊を悼み、慰霊の旅を通して平和の尊さを学んでいることを知りました」として、海技教育機構にお礼の手紙が届いた。

追悼のことばを捧げた後藤祐希実習生（東京海洋大学）の故郷、山形放送はニュースの特集、時を超えて「海に眠る戦没船員　慰霊の旅」と題して、ご遺族の和野隆悦さん（仙台市）のインタビューを交え船上慰霊式の模様を放送した。

戦時徴用船遭難の記録画展 横浜で開催

戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展

平成29年7月17日から23日まで、横浜市青葉区の横浜市民ギャラリーあざみ野で、第43回「戦時徴用船の最期　大久保一郎遺作展」を開催した。
　横浜市や近隣などからご遺族や市民、約500人が来場し、壮絶悲惨な戦没船と船員の記録画と絵画のモノクロ写真を熱心に見入っていた。

　横浜での戦時徴用船遭難の記録画展は、平成27年（2015）神奈川県民ホールギャラリーで開催して以来、5回目の開催となった。
　今回の記録画展は、これまでと同様に貴重な記録画を通して、ご遺族はじめ多くの市民の皆様に戦時徴用船乗組員の悲惨な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただくとともに、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、日本殉職船員顕彰会が全国を巡回して開催している。

絵画を熱心に見入る、来場者の皆さん

　先の大戦で、海運・水産で働く6万余人の船員が犠牲となるとともに、商船や機帆船、漁船等約7200隻・880万総トンを超える船舶が失われた。
　昭和17年（1942）、戦況が悪化し始め船舶が次々に撃沈されていく中、大阪商船の嘱託画家、大久保一郎画伯は、社長から「失われていく社船を記録に残してほしい」と指示を受け、戦時統制下の厳しい状況をおして、生還した船員たちから戦場の生々しい証言を聞き、記録画を密かに書き残した。
　大久保画伯が描いた30号の記録画は、終戦直後のかん口令や復興の混乱の中で行方不明になっていたが、昭和57年（1982）に発見され、これを修復し37点の記録画を公開することとなり、昭和57年（1982）12月、東京日本橋の三越本店で第1回記録画展を開催した。
　以来、北海道から沖縄まで、今回で28カ所・43回目の開催となった。
　また今回も、大久保一郎画伯が描いた戦没船と船員の油彩画37点のほかに、油彩画のモノクロ写真12点（原画は現存しない）を展示するとともに、DVD「NHK特集・太平洋シーレーン作戦」「第45回戦没・殉職船員追悼式」を放映した。

500人が来場

　多くの来場者を迎えるため、顕彰会のホームページでの周知と海事関係団体の広報誌等に開催案内を掲載していただくとともに、ポスター、リーフレットを各行政機関、海事関係団体、船社、マスコミ等に配布し事前に広報を行った。
　会期中、連日の猛暑にもかかわらず、ご遺族をはじめ海事関係者、遠方から、約500人が来場した。

東京海洋大学・海事普及会

　一昨年の横浜開催に引き続き、夏休み中にもかかわらず、今回も東京海洋大学・海事普及会の学生の皆さんに、会場の設営から撤収、来場者の受付や応対など、記録画展全般にわたってお手伝いいただいた。

大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に、1956（昭和31）年67歳。

大久保一郎画伯　（1889－1976）

明治22年　大阪市富島町（現在の西区川口）で生まれる。
大正15年　大阪商船（現㈱商船三井）の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぷらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。
昭和17年　大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。
昭和51年　1月19日自宅にて死去、享年86歳。
昭和57年　旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

記録画から受けた感動・感想

来場者の方々からアンケートとともに記録画から受けた感想が寄せられました。来場の動機と感想の一部を紹介します。

松澤直大くん（左）と日野陽介くん（右）二人とも小学５年生

●10代男性　会場にきて

24番の船尾に直撃弾を受けた本船。この絵は船の中にばくだんが入っていたようなイメージで、もう死んでしまうということがわかる、死の感じを表わした悲しい絵なんだなと思いました。

●20代男性　ＮＨＫラジオで知った

私の祖父が瑞穂丸に乗っていて、ルソン島沖で撃沈されたことを父から聞いていたので、今回の展示をぜひ見なければならないと思った。祖父は陸軍軍属（通信隊）として南方軍へ配属されるところであったが、撃沈されるも不思議に生き延びて、無事に帰国することができた。しかし元来軍人でもない祖父が元来軍艦でもない徴用船に乗って、戦火の只中へ送られたことを思うと、本当に戦争とはあらゆる人の運命を巻き込む悲劇であると実感する。

また、祖父が生き延びられたのも偏に船員の皆様の献身的な仕事のおかげで、心より感謝します。

●30代男性　ポスターを見て

私は現在病気療養のため下船中ですが、乗組員要員として勤務しています。

先の大戦における戦時徴用船の悲劇については、戦史を学ぶ途中において触れて知っている程度であり、積極的に学ぶ機会はなく、横須賀市内に戦没船員の碑があるのを知っているくらいでした。

本展で、生還船員の証言から描かれた絵を見て、映像や写真、文字とは違った印象を受けました。戦没船である濱江丸を父島にて生で見たのとは違い、船や船員らの無念が伝わってくるようです。太平洋に散華した諸先輩方の事が、より多くの人々に知ってもらえることを希望します。

藍野さん（小４）と大川さん（小４）
子どもなのでわからない。でも、絵をみてすこしざんこくだと思いました。

●50代女性　友人、家族から聞いて

海上にあってこその船。画中の全ての船が沈みゆく辛さ、悲しさ、切なさ、厳しさが胸に迫り、涙が出てきました。船と共に命を終えようとする船長、55歳とありました。まだまだ若い、そしてあまた若い船員の方々、楽しい青春時代を謳歌することもなく、海の藻屑と消えざるを得ない時代。その姿が具体的な画力で目に迫り、悲しさがストレートに心に刺さります。自らの息子の姿と重ね合わせまたしても涙、涙。大分以前ですが鮫と闘う船員の姿の絵を（多分新聞で）見たことがあり、今回、展覧会があることを教えてくれた友人（大型船の船長）のお陰で、心に大きなインパクトで残っていたその絵の実物を拝見することができました。友人には感謝しています。

息子もその友人も今の世なればこそ元気にしていられます。謹んで国のために命を海に沈めた御霊の鎮魂と、海の平和をお祈りもうしあげます。

●60代男性　顕彰会のＨＰを見て

私の祖父（日本郵船・鎌倉丸船長）もフィリピンにて殉職しました。写真でしか祖父を知りませんが、母から「アメリカは強大な国、日本が勝てるわけがない」と口癖のように話していたと聞いていました。

有為な船員・乗船者を多数失ったこと、何故当時の国の指導者は誤ったのか、あるいは気づいていながら何もしなかったのかその責任を永遠に問われるべきだと思います。

失われた多くの船員の命を思うと今の平和の有難さを感じざるを得ません。そして二度とこのような悲劇を繰り返さぬよう、しっかりとこの国の行く末を見守りたいと思います。

大矢秀二さんご夫妻
昭和19年11月3日、私には忘れられない事実として身に染みています。

どの絵を見ても70余年前のあの情況を思い出して感激しました。絵の船名には、私が航海中に、または台湾の港で見た船名もありました。

いつまでも若い少年時の出来事を思い出して、しばし涙が。魚雷命中、あの爆発の水柱の高いのを見ると身震いする程に、生々しく思い浮かんできます。（14歳の徴用船員）

受付を行う、東京海洋大海事普及会の学生さん

●40代男性　ポスター、チラシで

船の歴史に興味を持っており、大久保画伯の絵の存在は知っていましたが、現物を見るのは今回が初めてでした。

十分な護衛がないまま黙々と輸送に従事し、その最期を記録した絵は事実を後世に伝える貴重な記録であり、現物を見て、記録分では伝わらない、船が沈む悲惨さが伝わってきました。

戦争というと、軍艦や飛行機の戦いは人々に知られている反面、輸送船の戦いはあまり知られていないように思います。

今後もできる限り各地で、戦時徴用船の記録画展を開催され、多くの人に輸送船の戦いがあった事実を知ってほしいと思います。

●50代男性　会場に来て

先の戦争に巻き込まれた多くの乗組員の方々がいたことについて、今回の遺作展の作品を通して理解が深まりました。開戦は大きな誤りであり必然性のようなことをいっても正当化できるものではないと思います。

海運は日本の発展に不可欠であり、今後二度と戦争に巻き込まれないことを祈っております。今後も多くの人にこのような機会を提供いただきたいと思います。

●60代男性　毎日新聞を見て

以前、NHKの番組で大久保画伯が帰還船員の方々から話を聞き、それを画として残されたと紹介が有り、ぜひ見てみたいと思っていました。

実際よくここまで描かれたと驚きました。ただ残念ながら、これらの船員の方々の犠牲とこの絵の存在について、知られていない、特に若い世代に伝わっていないように思います。この事は今後の日本の行方にもかかわる重要な事案であると思いますので顕彰会の一層の活動を期待するものです。

●70代男性　会場の案内を見て

破壊されゆく船舶、それに乗船していた人々の死亡。島は日本の宿命といえる物資、人材の長距離輸送のための船舶の利用。そのために戦時にはこの様な犠牲が生ずることは予測できたのであるが、それを軽減する対策がなかったこと。太平洋戦争の反省。ひるがえり、今日の日本はどうであろうか?資源のない日本は遠く中近東からの石油、天然ガスの輸入、そのための大型タンカーによる長距離輸送。何か事があった時には同様な犠牲が生じるのは明らか。戦争が生じない様に、平和な世になるように努力が不可欠。

●80代以上男性　友人、知人、家族

戦没船員の犠牲者は6万余人であることを今日知りました。同時に輸送船と運命を共にした多くの軍人が30万人超えとも知りました。

私の父は、まさに軍人として富山丸に乗船し約3600人と共に犠牲となりました。

日本殉職船員顕彰会と同様の軍人の顕彰会の有無は知りませんが、今日の展示で大きな感銘を受けました。

※「富山丸」（陸軍徴用貨物船、7089総トン、西大洋漁業）昭和19年6月29日、那覇に向けて航行中、徳之島亀津北東12km付近で被雷。搭載ガソリンに発火、大火災を起こし沈没。海上も火の海と化して多数の戦死者を生じた。沖縄派遣部隊4千人余の内3627人、船砲隊6人、船員70人が戦死した。

●80代以上男性　ポスターを見て

太平洋戦争は全く無謀な戦争であったことを改めて認識させられた。この戦争のために無残な死を遂げられた方に感謝と哀悼を捧げたいと思いました。我々が今日あるのはこれら犠牲者の皆様のおかげと思います。小生は開戦時、国民学校2年生で、開戦から敗戦までことごとく覚えています。小生は長崎県大村市で生まれ、昭和17年10月25日には海軍航空省のB29の大空襲を経験しました。その時、爆撃機の外れ弾数個が近所に落ちて幼馴染の友達姉妹2人が亡くなりました。戦争はむごいもので敗戦国も戦勝国も取り返しのつかない犠牲者を出し、皆の人生を無残なものにします。戦争は二度と繰り返してはなりません。然し、戦争やテロが今もって世界各地で行われています。人間はなんとおろかなものかと悲しくてなりません。世界が平和でみんなが二度とない人生を幸せに遅れるように祈らずにはおれません。

ＤＶＤを鑑賞し、アンケートを記入する来場者

観音崎公園　戦没船員の碑

海の日清掃・献花式　横須賀海洋少年団

昨年7月16日、横須賀海洋少年団「海の日」行事として恒例の「戦没船員の碑」清掃と献花式が行われた。強い日差しが照りつける猛暑の中、観音崎公園に集まったのは、小2から中3までの横須賀海洋少年団と大和海洋少年団の団員8人と保護者、指導者ら約30人。これに顕彰会と海事関係者が加わって、汗だくになりながら1時間余り清掃した。辺りがすっかり清められると「安らかにねむれ　わが友よ　波静かなれ　とこしえに」と刻まれた碑文石に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。

横須賀海洋少年団には、海上自衛隊横須賀地方総監部、横須賀土木事務所とともに、第1回追悼式からご支援・ご協力をいただいている。団員から活動などについて、話を聞いた。

「戦没船員の碑」と周辺を清掃した後、献花式のセレモニーで、黙とうを捧げる海洋少年団の皆さん

■吉川　諒くん　小４

掃除は４回目、全部大変だけれど、アリが壁を登るのが見れて面白い。今年の全国大会に行くのが楽しみ。

■井場　大翔（ひろと）くん　小５

海洋少年団の活動が面白そうだから今年はいった。海のことがもっと知りたい。ロープワーク、手旗、難しいけれど面白い。掃除は初めての参加。

■長島　聖英くん　小６

小さい子が勝手なことをするから、その世話をする６年になったら大変。でも、６年になってロープがうまくなったと思う。戦没船員の碑の掃除は５回目の参加。

いま、学校で三浦の戦争のことを勉強している。戦争は残酷だなと思う。特攻隊はかわいそうだな、死にたくなかったろうなと思った。

■長島　崇瑛くん　小６

碑の掃除は六回目の参加。

今、戦争の勉強をしていて、動画とか見たら、怖かった。

戦争のときは、死ぬのが勤めだと思ったのは、そう思わされていたからだと思う。戦争の時に生きていた人は罪もなく死んでいったからかわいそうだなと思った。

昔と違って、今は平和。お母さんやみんなと掃除をして楽しい。

団員が増えたし、前より掃除が楽しくなった。

■益原　出帆（いずほ）くん　小６

親に勧められたのと、兄が入っていたから一年生で入団した。

碑の掃除の参加は６回目。掃除は大変だが、もし、草が生え放題になったらお参りに来る人がいなくなるかもしれない。

そうなったら、ここに眠っている人たちがかわいそうだと思った。だから、一生懸命に掃除をした。

海洋少年団の活動は訓練も楽しいが行事がたのしい。

碑文石をきれいにする海洋少年団のみなさん

■山本　尚虎(たかとら)くん　小4

お母さんにすすめられて小3から入った。

活動はシーカヤックが楽しかった。

ヨットにも乗ってみた。カッターは10人、シーカヤックは一人で乗るが、堤防の内側で乗るから怖くはなかった。

掃除は大変だったけれど、きれいになって楽しかった。

戦争はなくなってほしい。

■益原　大和くん　中3

掃除の参加は8回目。

今年はいつもよりきれいになったと思う。

たくさんの人が亡くなって、ここに眠っているから、よりきれいに掃除しなくてはならないと思った。

中3になって面倒をみる年下の子が増えたから大変ではある。

まわりに迷惑をかけないように視野を広く持つように気を付けている。大変ではあるが、出来れば高校生になっても活動を続けていきたい。

ご協力ありがとうございました

横須賀海洋少年団「海の日」行事、「戦没船員の碑」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとう」と声高らかにお礼を述べていました。ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。

ご協力ありがとうございました。

日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本船主協会・大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水路協会・日本中小型造船協会・日本倉庫協会・海上保安庁・海技教育機構・全日本海員組合・全日本海員福祉センター（順不同）

提供されたグッズを手に、皆で記念写真

マリンミュージアム

タンカー機関長のセカンドライフ　上下　小野寺 功一著

小野寺功一さんの外国航路初乗船は、日本がまだ貧しかった昭和30年代。戦争生き残りのオンボロ船と言われた1万4000トンの戦時標準船に乗船。外航タンカーの機関士・機関長として30年余り、その後5年間、超低温冷凍運搬船の機関長を勤め、最後の船はコンピューター制御の最新型27万トン（長さ340メートル）のVLCC（超大型タンカー）で、イラン・イラク戦争時、ペルシャ湾を往復した。

海上の職場を定年後に、海事博物館（マリンミュージアム）の研究員、館長として、一般の人に明治以来の日本の海運・船員の歴史、特に先の大戦で6万人を超す船員が戦火の中で亡くなったことを伝える、広報・啓蒙活動を14年間行った。

平成6、7年に出版した「機関長の航海200万マイル」「地球90周の航海　マリンエンジニアの寄港のアルバム」に次いで、海事博物館勤めを通じて感じたエッセイ文や連載文、新聞投稿文、戦没・殉職船員追悼式に寄せた文章をまとめて今回発刊した。

上下巻・各1500円
上下巻で　3000円

問合せ先

●丸善　仙台アエル店
仙台市青葉区中央1・3・1　☎022・264・0151

●宮脇書店　気仙沼本郷店
気仙沼市本郷7・8　☎0226・21・4800

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成29年7月1日以降、平成29年11月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費＝1口10万円、◎個人賛助会費＝1口1万円をお願いしています。

■協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は1口3千円です。

新たな賛助会員の皆様（順不同）

○河﨑秀夫様（大阪府和泉市）
○鮭川次男様（茨城県守谷市）

追悼式献花料

○河合ハル子様（横浜市）

寄付金（順不同）

○細井輝房様（千葉市）
○河﨑秀夫様（大阪府和泉市）
○海友会　様（高知市）

遺族援護寄付金

○河合ハル子様（横浜市）

終戦記念日献花式供花料（順不同）

○日本内航海運組合総連合会様（東京都千代田区）
○多胡明美様（東京都小金井市）

戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展寄付金（順不同）

○宮井二朗様（東京都世田谷区）
○二階堂啓子様（東京都豊島区）
○二村大輔様（埼玉県戸田市）
○河尻直樹様（東京都墨田区）
○佐藤　仁様（横浜市）
○服部雄介様（愛知県豊橋市）
○森本圭子様（川崎市）
○辻内賢一様（横浜市）
○眞鍋泰治様（横浜市）
○末竹義弘様（埼玉県所沢市）
○大矢秀二様（横浜市）
○渡辺　悟様（東京都練馬区）

銀河丸船上慰霊式寄付金（順不同）

平成29年8月、練習船銀河丸「戦没船員船上慰霊式」を執り行うにあたり、次の法人、団体、個人の方々から、独立行政法人海技教育機構ならびに、当会にご協賛いただきました。厚く御礼申し上げます。

○日本郵船㈱様（東京都千代田区）
○㈱商船三井様（東京都港区）
○川崎汽船㈱様（東京都千代田区）
○飯野海運㈱様（東京都千代田区）
○太洋日本汽船㈱様（神戸市）
○玉井商船㈱様（東京都港区）
○商船三井オーシャンエキスパート㈱様（東京都港区）
○全日本海員組合様（東京都港区）
○猪股貞雄様（東京都清瀬市）
○太田紀子様（浜松市）
○貝塚芳治様（埼玉県東松山市）
○河﨑秀夫様（大阪府和泉市）
○橋本正夫様（京都市）
○藤井延子様（富山県射水市）
○藤井靖子様（広島県府中市）
○堀　桂子様（大阪市）

終戦記念日献花式

平成29年8月15日(火)、時おり強い涙雨が降るなか神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」(横須賀市)に、朝倉次郎会長はじめご遺族、前職および現職役員ならびに評議員、海事関係者ら40人が参列し、終戦記念日献花式が挙行された。

献花式は例年どおり日本武道館で行われた政府主催の全国戦没者追悼式の進行に合わせて執り行われた。

東京湾口を望む慰霊碑に供花し黙とうを捧げ、戦没船員・殉職船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに海洋永久の平和を誓った。

ホームページ　http://www.kenshoukai.jp　　Eメール　kenshoukai@isis.ocn.ne.jp